

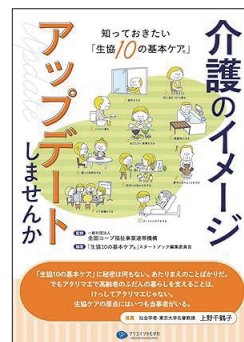
書評01

『生協 10 の基本ケア®』スタートブック編集委員会 編著
一般社団法人 全国コープ福祉事業連帯機構 監修

『介護のイメージアップデートしませんか 知っておきたい「生協 10 の基本ケア®」』

クリエイツかもがわ / 2025 年 4 月刊 / 104 ページ / 1800 円 + 税
ISBN 978-4-863-42388-6

評者：金山 修
京都生活協同組合 常務理事



本書は、今まさにケアする・される状況にある方々はもちろん、これからケアに向き合う可能性のある方々すべてにとって、適切な指針を提供してくれる良書です。

私のはじめて「生協 10 の基本ケア」に出会ったのは 6 年前。福祉事業部への異動を命じられ着任したところ、「サ責」「サ高住」「小多機」等々、はじめての言葉に面食らったものですが、「生協 10 の基本ケア」もそのひとつでした。前任職員から「うちはチャレンジ宣言してるから取り組んでね」と言われて首をひねったものです。

「生協 10 の基本ケア」とは、「換気をする／床に足をつけて座る／トイレに座る／あたたかい食事をする／家庭浴に入る／座って会話ををする／町内におでかけをする／夢中になれることをする／ケア会議をする／ターミナルケアをする」の 10 のケアをすすめるメソッドです。ならコープが母体である社会福祉法人協同福祉会の「あすなら 10 の基本ケア」がベースになっています。

多くの福祉法人は、「理念」や「大切にしたいこと」を定めています。それらと「生協 10 の基本ケア」は、3 点での違いがあると考えます。第 1 に「視覚的」であり、具体的で視認しやすいケア実践であること。第 2 にメソッドとして手順化しやすくステップアップの確認が容易であること。第 3 に「より良い在宅生活の姿」を指し示すことで、ケア職員や利用者・家族だけでなく、生活者一般や地域社会への概念拡大ができること。

本書は、これら「生協 10 の基本ケア」の特

徴を、直感的かつロジカルに叙述することに成功しています。画像がふんだんに使われていることで、実際の利用者・職員の生き生きとしたケアの姿が説得力をもって伝わってきます。また座位や立ち上がり、トイレ介助などの項では、連続写真を用いることで、ケアする・される際の注意点が分かりやすく解説されています。さらに「元気なうちから知っておくこと・できること」がていねいに解説されており、これからケアに関わるための「予習」がバッチリできます。

「介護は大変」というステレオタイプから脱して、「介護する人も、介護を受ける人も、介護に縁がない人も」(p.10) 不安を乗り越えてより良いケア社会を築いていく、それが本書のメッセージである「アップデート」だと理解しました。現時点ではケアに関係がないという人にこそおすすめしたい一冊です。

一点だけ疑問に思っていること。「昔ながらの日本家屋は…とても風通しのいい空間で、知らず知らずのうちに換気ができていました(p.14)」とあります。原則としてはその通りですが、ここ数年の夏が「命に関わる危険な暑さ」となっている今日、今後の家の作りは「高断熱・高気密」を重視したものにならざるを得ない、という指摘があります。このとき「換気をする」の内容をどのようにマイナーチェンジするのか(あるいはしないのか)、今後の実践的な検討が必要だと感じました。

参考：高橋真樹「猛暑こそ活きる断熱住宅」(『世界』2025 年 9 月号)